

超耐候性多目的コーティング材
パイロキープTS工法

コンクリート防食
塗装仕様・施工要領書

平成 29 年 11 月作成

株式会社ビルドランド

コンクリート防食全般

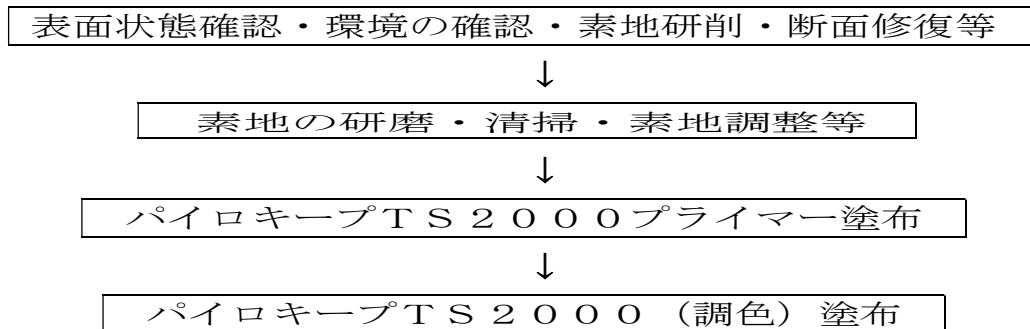
1. 使用材料

品 名	成 分	荷 姿	用 途
パイロキープ TS2000（調色）	チタン酸カリウム ウイスキー含有特 殊アクリル変成シ リコン	10kg セット （主材：7 kg/ 缶、硬化剤：3kg/缶） 4 kgセット（主剤：2.8kg/ 缶、硬化剤：1.2kg/缶）	上塗材
パイロキープ TS2000 プライマーC （白・調色）	チタン酸カリウム ウイスキー含有特 殊アクリル変成シ リコン	10kg セット （主材：7 kg/ 缶、硬化剤：3kg/缶） 4 kgセット（主剤：2.8kg/ 缶、硬化剤：1.2kg/缶）	下塗材 （コンクリート・モ ルタルその他）
パイロキープ T S 900E	水性エポキシモル タル	20kg セット （粉材：15kg/ 缶、混和剤：5kg/缶）	素地調整剤

メーカー 株式会社シリカ・ジャパン

1. 商品名 パイロキープ T S 2000 各種
有機溶剤の種類 主剤・硬化剤：第4類第2石油類（キシレンを含む強溶剤）
規格 10 kg セット・4 kg セット
- 商品名 パイロキープ T S 900E（水性）
規格 20 kg セット
- 商品名 パイロキープ専用シンナー（キシレンを含む強溶剤）
規格 15 kg ・ 4 kg

2. 1. 施工順序



2. 2. 標準施工方法

工 程	使用材料名	施工方法	標準使用量 (kg/m ²)
素地研削・ 断面修復等	高圧水洗機 電動工具	コンクリート素地の脆弱層ハツリ→カチオンモルタル等による断面修復→モルタル養生（含水率 8%以下）	劣化状況に応じる
素地研磨・目粗し	電動工具等	レイトンス・エフロの除去・目粗し	—
素地調整	パイロキープ TS900E	コンクリート素地はピンホールの発生防止を目的にコテにてシゴキまたは薄塗り塗布する。	1×1回
下塗り	パイロキープ TS2000 プライマーC（白又は調色）	規定の配合で混合し、刷毛、ローラー・スプレーガン等にて均一に塗布する。	0.2×1回 （コンクリ用） （標準）
上塗り	パイロキープ TS2000（調色）	規定の配合で混合し、刷毛、ローラー・スプレーガン等にて均一に塗布する。	0.15×2回 （標準）

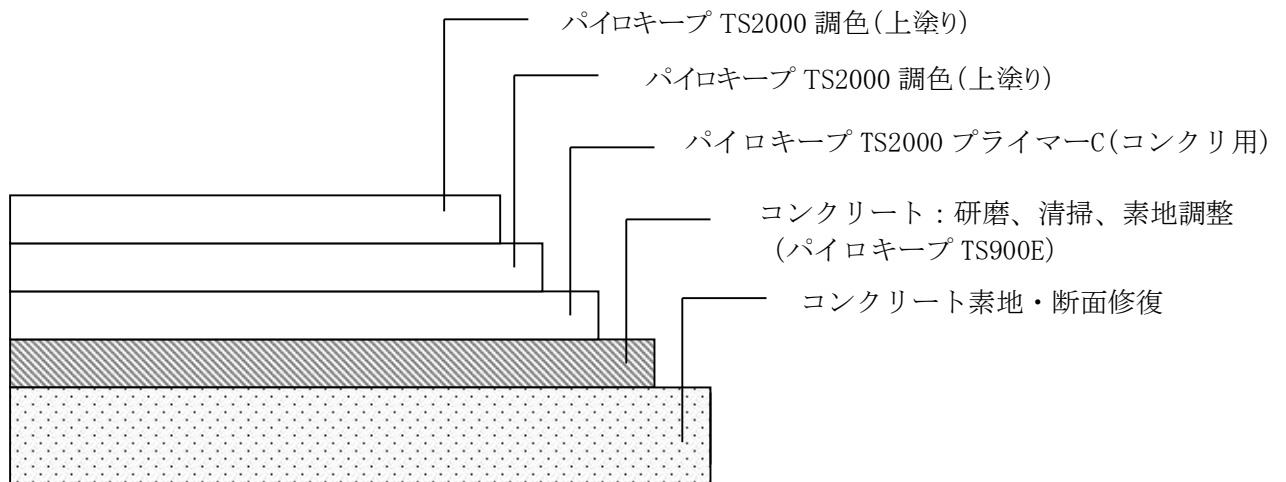
塗装器具：

パイロキープ下地調整材 TS900E・・・コテ

パイロキープ塗料各種・・・刷毛・ローラー・吹き付け

3. 材料配合と施工仕様

工程	使用材料	配 合	標準塗装間隔 (20℃)	標準使用量 (kg/㎡)	希釈率 (%)
素地調整	TS900E	主剤：7kg 硬化剤：3kg	—	1×1回 (標準)	5以下 (清水)
下塗り	TS2000 プライマー各種	主剤：7kg 硬化剤：3kg	素地調整材塗布後 12時間以上 4日以内 1day1court 推奨	0.2×1回 (標準)	5～15 (専用溶剤)
上塗り	TS2000 各種	主剤：7kg 硬化剤：3kg	下塗り塗布後 6時間以上 4日以内 1day1court 推奨	0.15×2回 (標準)	5～15 (専用溶剤)



4. 施工上の留意点

4. 1. 施工前

パイロキープ施工前に素地調整層の表面状態および作業環境についてチェックする。

塗装方法に合わせた塗装養生を行う。

- ① 前処理、表面清掃が完全に行われ表面に汚れ・油脂等の付着が無い事を確認して下さい。
- ② 5℃以上の環境温度が確保されている事を確認して下さい。
- ③ 過湿状態での塗装（85%以上）は避けて下さい（透明度・艶が減少する場合があります）
- ④ 溶剤系塗料やシンナーを使用します。防毒マスクの着用、十分な換気、火気厳禁等厳守願います。

4. 2. 施工中

旧浮塗膜・脆弱塗膜のある場合は研磨により完全除去して下さい。

塗装面のホコリ、汚れ、錆び、油脂類等は除去して下さい。

TS2000 各種の塗布

気泡の発生防止

気泡は硬化後のピンホールやクレーター、ブツの原因になるため、以下のことを守り、泡の発生防止に努めて下さい。

主剤と硬化剤の混合する際はハンドミキサー等を用い低速で1分程度、静かに混合する。（攪拌不足は硬化不良や硬化時間遅延の原因になります）泡切りの為、攪拌後はネタを5分程度寝かせて下さい。

主剤と硬化剤の混和後は1時間程度で使い切れる量（主剤70%対、硬化剤30%）の割合で混和して下さい。

使用残りの塗料への塗料追加、硬化を始めた塗料へのシンナー追加はNGです。

シンナー希釈は、ダレることなく刷毛目の出にくい希釈量をコントロールして下さい。

（目安）

ローラー塗装	10%±5
刷毛塗装	10%±5
吹き付け	15%±10

ローラーを用いる場合：泡噛み、泡残りしやすいシリコンリッチの特殊塗料です。ローラー施工の場合、できるだけ口径の小さく（スモール）毛足の短いもの（5～6mm 推奨）を使用する。塗料を配った後、速やかに手返しして泡を潰し、ピンホールやクレーター、ブツができないようにして下さい。ひつこいピンホールは下塗り時点でエポキシパテで潰す場合もあります。

吹き付け作業：ミストの排出管理、マスクによるミスト養生、強溶剤による周辺環境への臭気管理等、特に注意願います。

塗り重ね時間（目安）

硬化時間は、気温・湿度・風通りにによって変わりますので注意して下さい。

気温が 10℃以下では硬化速度が極端に遅くなるので、硬化促進剤を用いて調整する場合があります。促進剤の添加量は 1%以内で使用して下さい。また、硬化促進剤を使用すると塗料のゲル化が早くなりますので、使用の際はポットライフ（使用可能時間）を考慮して添加して下さい。（通常は使用しません）（別売）

塗り重ねのおおよその目安は、

5 ～ 9℃	・・・ 8～24 時間以上 4 日以内
10 ～ 19℃	・・・ 6～8 時間以上 4 日以内
20 ～ 30℃	・・・ 4～6 時間以上 4 日以内

タック切れ時間は風の通りが多いと早くなります。

タック切れ時間は湿度が高いと遅くなります。

※上に乗らない作業では TS2000→TS2000 は、ウエットオンウエット（タックのある状態での塗り重ね）可能です。

その他（要領）

- ① ポットライフ（混合後の使用可能時間）は比較的短い材料です。混和後は 1 時間以内で使い切るようにして下さい。（最大 2 時間）
- ② パイロキープの硬化後はどんな強溶剤に浸けても戻りません。使用後の刷毛・ローラー・塗装機は速やかに十分に洗浄して下さい。
- ③ 角部の処理（増塗）出隅は塗膜厚が薄くなる傾向にあるので刷毛等で当初に増し塗りを行う。
- ④ 一回での厚付け部・溜まり部は、発泡する・硬化が遅くなるなどのデメリットが発生します。
規定量以上の厚塗りは NG です。

以上